

ドーピング まめちしき!

Vol.18

嶋元医院 院長 嶋元 徹

ドーピング検査を行う検査員(DCO)の経験者

2015 わかやま国体開幕直前号

いよいよ9月26日から2015わかやま国体が開幕します。

皆さん、体調管理は万全でしょうか？この時期暑い日があったり、肌寒い日があったり、めまぐるしく気温も変化し体調を崩す選手もいると思います。「大事な大会に行くのだから、いざという時のために！」と、ご家庭の救急箱から常備薬を荷物に入れる選手はいませんか？

「ちょっと待った！！」

ご家庭の救急箱は大変危険です。ドーピング禁止薬の宝箱かもしれませんよ。一般的な市販薬や常備薬は、「風邪薬」「胃腸薬」のように、色々な症状に対応するため、複数の薬剤が組み合わせられた配合剤がほとんどです。例えば「風邪薬」の中には禁止薬であるS3:β2作用薬 S6:興奮薬などが含まれた物が多く市販されています。もしこれを大会中に服用した場合、完全にドーピング禁止違反となります。

「普段から服用している薬がある」「体調が心配」「遠征に行くと風邪をひく」などの不安がある場合は、必ずやまぐちスポーツ医・科学サポートセンターに相談し、持参する薬剤の確認を確実に行ってください。

また、現地に行って急に体調を崩した場合は、監督、コーチ等に相談をし、自分の判断で勝手に薬を服用しないようにしましょう。やむを得ず選手自身が現地の薬局で薬を貰う場合は、必ずドーピングの知識を持ったスポーツファーマシストが常駐する薬局で購入しましょう。和歌山県薬剤師会のホームページにスポーツファーマシストが常駐する薬局がリストアップされています。また、薬局の店頭にある「ストップうっかりドーピング」のステッカーが貼ってある薬であれば、安心して購入することが可能です。

この薬はドーピングの
心配なく使用できます。



和歌山県薬剤師会

商品名

薬剤師
監製済

印